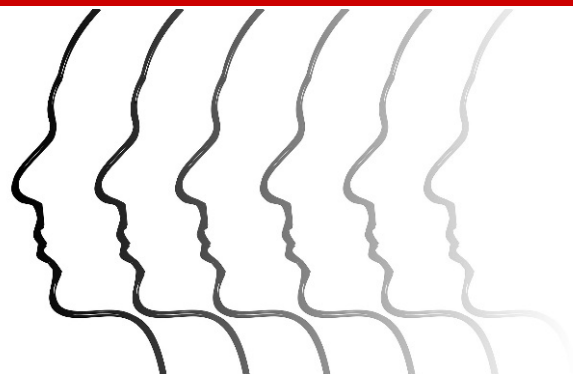


えん罪を生まない捜査手法を考える

Sources and Causes of Wrongfully Convicting the Innocent:
From Biased Scientific Evidence to Misguided Interrogation Methods



日時

2017年 6月18日(日)

13時~17時30分

(開場: 12時30分)

場所

立命館大学

大阪いばらきキャンパス

B棟 (立命館いばらきフューチャープラザ)

3階・コロキウム

取調べにおいて虚偽の自白が行われ
ないようにするためにはどうすれば良
いのでしょうか。科学的捜査を行う専
門家のバイアスで捜査結果が歪めら
れてしまうことを防ぐ方法はあるの
でしょうか。英国において蓄積されて
きた知見を踏まえ、えん罪を生まな
いための取調べ(インタビュー)手
法や科学的捜査のあり方について考
えていきたいと思えます。是非、ご
参加ください。



参加費・申込み 不要

プログラム

通訳あり

●「えん罪救済センター」一年間の活動を振り返って●
山田早紀 (立命館大学研究員・えん罪救済センター事務局)

●講演1●「アメリカ合衆国における誤判えん罪」
アイラ・ベルキン (アメリカ・アジア法研究所事務局長,
ニューヨーク大学教授)
Ira Belkin, “Wrongful Convictions in the United States”

●講演2●「英国における取調べ—その歴史と展開」
アンディ・グリフィス(ポーツマス大学研究員,
英国警察大学講師, 元英国サセックス郡警察警視)
Andy Griffiths, “History and Developments:
Investigative Interviewing in the UK”

コメント

浜田寿美男 (奈良女子大学名誉教授,
立命館大学上席研究員)

●講演3●
「警察捜査における意思決定を強化するための
認知的アプローチ—捜査現場から法廷まで」
イティエル・ドロー
(ロンドン大学認知神経科学上級研究員)
Itiel Dror, “A Cognitive Approach to Enhancing Police
Investigative Decision Making:
From Crime Scene to Court”

コメント

平岡義博 (立命館大学特別招聘教授,
元京都府警察科学捜査研究所)

●総括● 徳永 光 (獨協大学教授)

●閉会挨拶● 稲葉光行 (立命館大学教授・えん罪救済センター代表)
●総司会● 笹倉香奈 (甲南大学教授・えん罪救済センター副代表)

主催 えん罪救済センター (Innocence Project Japan)

共催 立命館大学 立命館グローバル・イノベーション研究機構(R-GIRO)

「修復的司法観による少子高齢化社会に寄り添う法・社会システムの再構築」

立命館大学 人間科学研究所「えん罪救済センタープロジェクト」

法と心理学会

講師略歴



アイラ・ベルキン
アメリカ・アジア法研究所事務局長
ニューヨーク大学教授

2012年9月より、アメリカ・アジア法研究所事務局長。元連邦検察官、フォード財団研究調整官。

大学時代から中国に関心を持ち、ミドルバリー大学にて中国語講師を務めた後、ニューヨーク大学法務博士を取得。法科大学院修了後は連邦の検察官を16年務め、ロードアイランド州プロヴィデンス刑事局長やニューヨーク州ブルックリン一般犯罪捜査ユニット長を歴任。検察官在任中も中国に強い関心を持ち、中国における法の支配を促進するために、北京の米国大使館への出張を行ったり、イエール大学法科大学院中国法センターの研究員を務めたりした。

2007年以降2012年まで、北京のフォード財団研究調整官。中国における法や権利の問題を扱った。助成金を提供することによって、法制度を構築し、法の支配を強化し、市民の権利（特に弱者の団体）の保護を強化しようとする中国内の各団体の支援を行った。



アンディ・グリフィス博士
ポーツマス大学研究員、英国警察大学講師、元英国サセックス郡警察監視

専門は捜査と取調べ。英国警察に30年間務めた間、上級捜査官として多数の重大事件の捜査に関与し、2008年には200万人の人口を擁する地域で、重大事件の捜査を統括する責任者である「重大事件捜査部長」に任ぜられた。また、英国全土の警察に助言する全英評議会の委員として、捜査段階の取調べに関する政策の作成や研修にも関与した。重大事件の被疑者取調べや証人取調べについての研修の効果に関する研究によって博士号を取得し、この分野に関する多数の論文を執筆。米国、ニュージーランド、英国における冤罪事件の調査にも、専門家ボランティアとして関わった。

現在は英国警察大学校の準指導員、英国の2つの大学の招聘研究員。国際的にも様々な団体に対して研修やコンサルティングを行っている。



イティエル・ドロー博士
ロンドン大学認知神経科学上級研究員

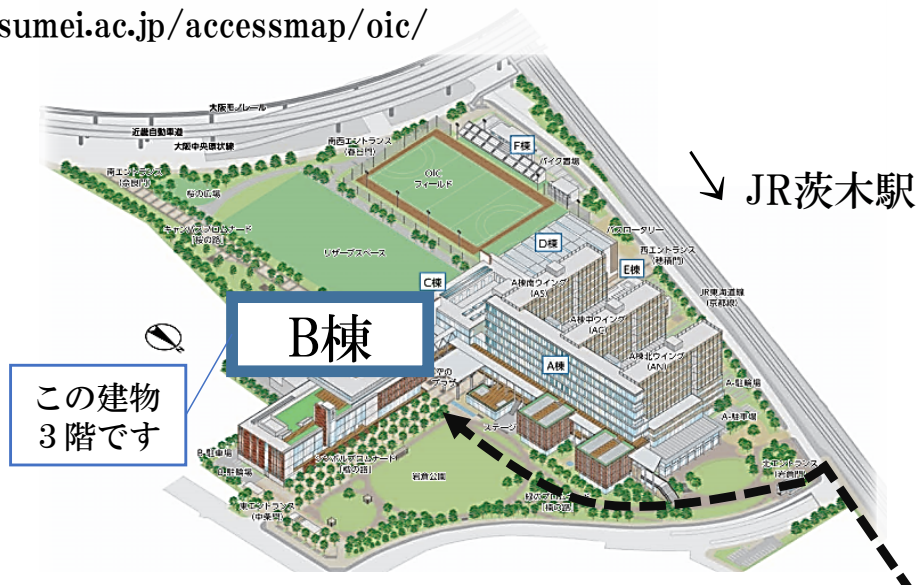
ハーバード大学心理学博士。専門は専門家の行動・パフォーマンスである。人間の脳と専門家の判断を支える認知的構造について研究してきた。実験室ベースでの研究のほか、多種多様な専門家（パイロット、最前線の警察官、犯罪捜査官、科学捜査官、医療専門家）と共にフィールドワークも実施してきた。専門家の認知にはぜひ弱さがあることを研究によって明らかにし、これらの研究に基づいて、専門家の認知のぜい弱さを是正し、パフォーマンスを向上させるための独自の方法を開発した。100以上の論文を執筆し、カナダ、ブラジル、イタリア、英国（ロンドン警視庁、グレイターマンチェスター警察その他多数）、米国（FBI、ロサンゼルス警察、ニューヨーク警察その他多数）、フィンランド警察、オランダ警察、オーストラリアその他の国々において警察の研修を行ってきた。詳細はwww.cci-hq.comを参照。

会場へのアクセス方法

立命館大学 大阪いばらきキャンパス B棟 (立命館いばらきフューチャープラザ) 3階 コロキウム

〒567-8570 大阪府茨木市 岩倉町2-150 (JR茨木駅 東口より徒歩約10分)

アクセス方法→ <http://www.ritsumei.ac.jp/accessmap/oic/>

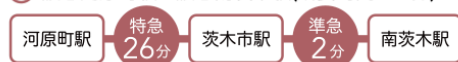


京都方面から

① JR京都駅～JR茨木駅(所要時間:17分)



② 阪急河原町駅～阪急南茨木駅(所要時間:28分)



大阪方面から

③ JR大阪駅～JR茨木駅(所要時間:11分)



④ 阪急梅田駅～阪急南茨木駅(所要時間:18分)



JR茨木駅東口を出て
線路沿いの歩道をお進みください